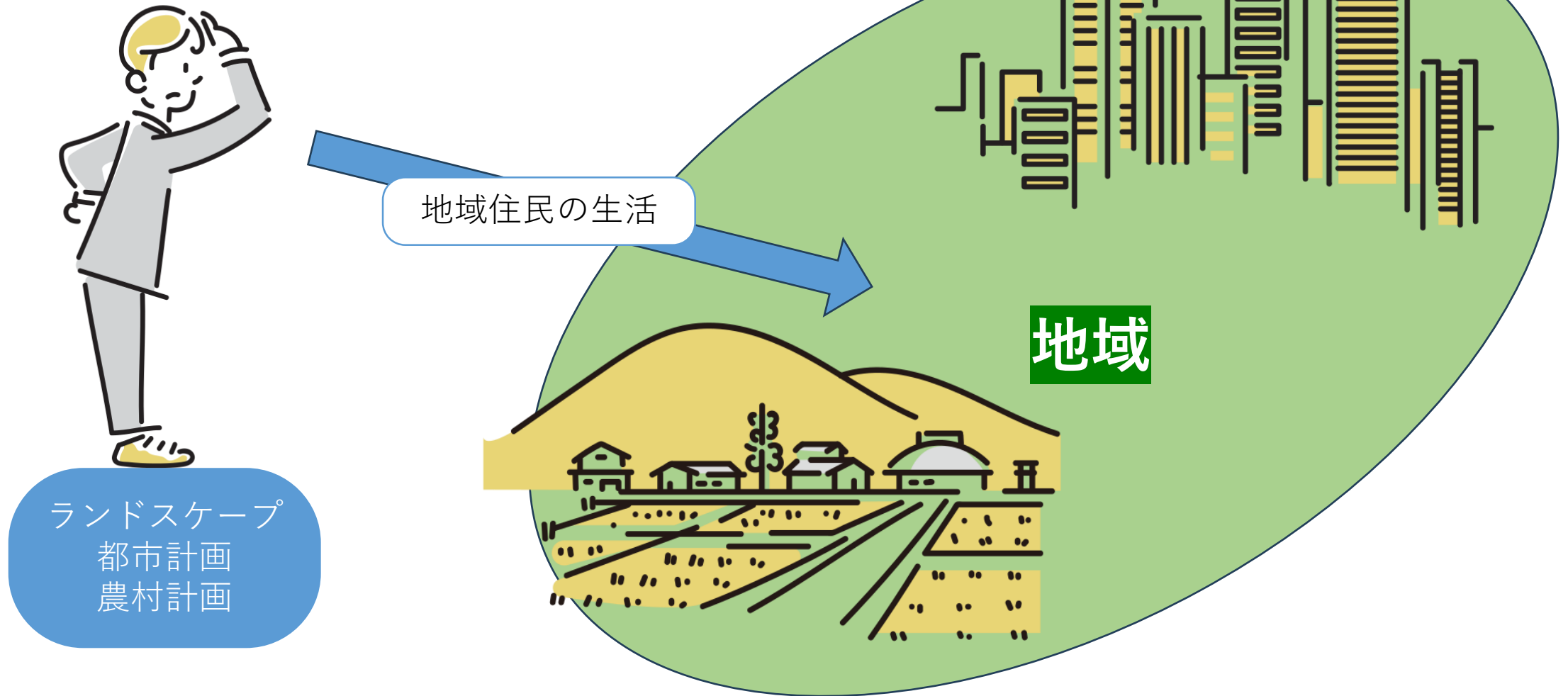


千葉大学下郷町大内地区

千葉大学地域計画学齋藤研究室

1.地域計画学研究室について

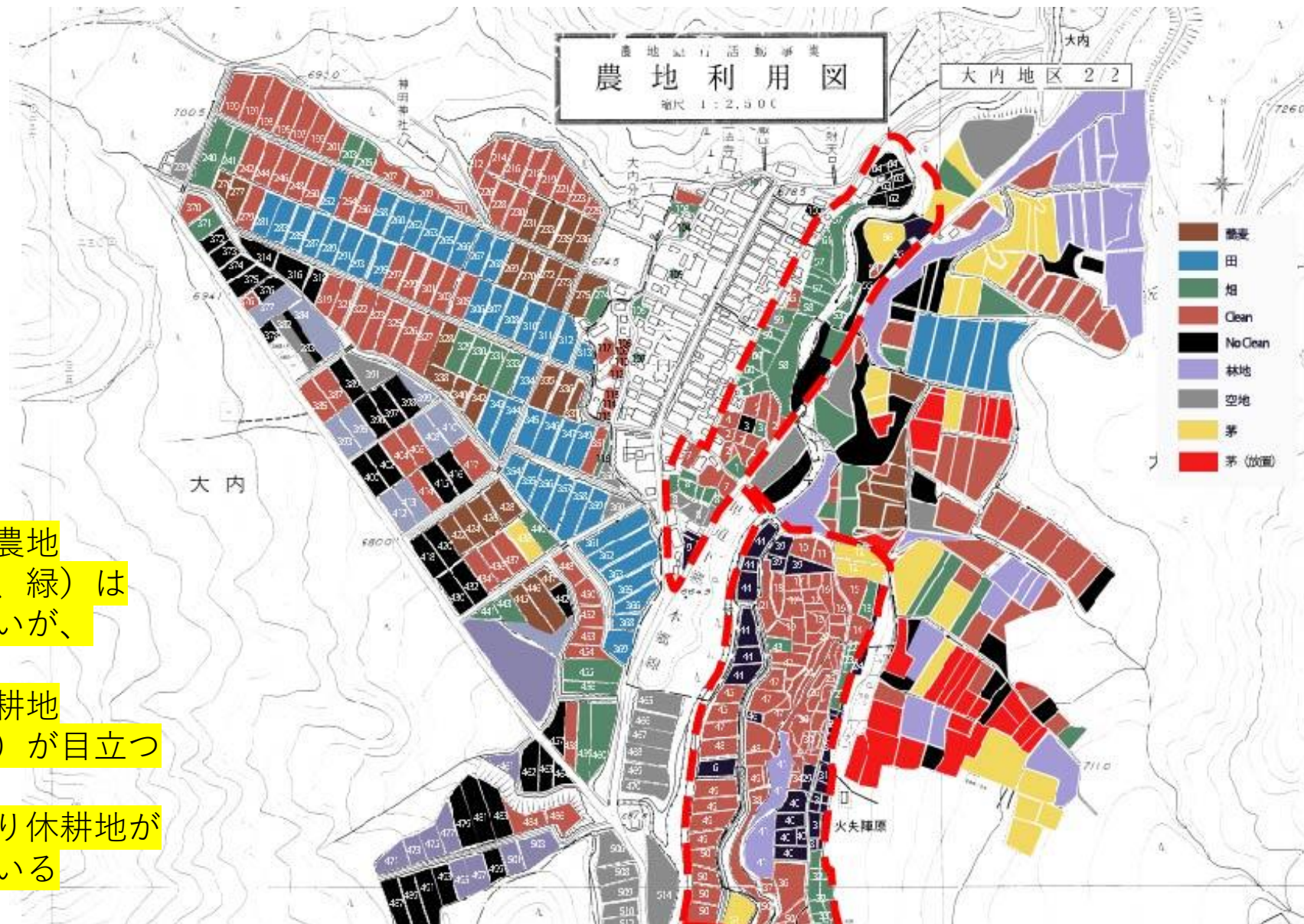
- 千葉大学園芸学部緑地環境学科所属



2.大内地区のイメージと実際



3.今年度の活動内容 2023.7農地調査



耕作中の農地
(茶、青、緑)は
西側に多いが、

東側は休耕地
(黒、赤)が目立つ

茅場により休耕地が
保たれている



2023.7そば撒き・茅場整備



2023.10そば収穫・蕎麦打ち



4.活動により発見した課題、活かすべきこと

- ①全般的に休耕地が多いが、特に東側農地に多い
- ②茅場が大きな役割を果たす（茅の7割弱は購入）
- ③新規イベントや休耕地の貸与・売却には容認派が多いが、
- ④建物「売らない、貸さない、壊さない」は、賛否半々
- ⑤農作業を前向きに捉える方、大内への愛着を感じる方はそれぞれ半数

→山や農地を大内の魅力と感じる方が多い

よそ者の建物利用・居住には意見が分かれるが、地域外の農地利用や交流イベントなど現状を改革してもよいと考える人が多い

5.課題解決のための提案、考察 6.今後に向けて

「カヤバで大内の新しい風景をつくる」プロジェクト（案）

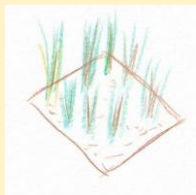
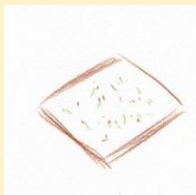
○経緯

- ・2/12ワークショップでは茅場を大内らしい風景としてアピールする案がでた
 - ・農地の荒廃が課題：地元では管理の担い手が不足 & 千葉大は遠方にあり年間を通じての栽培は難しい
- 省力化できる作物で住民・大学で交流しながら、休耕地を減らす案を考えた（茅と想定したがソバも検討可能、東側山手の農地を想定）

2023年度

「管理されている休耕地に茅を植えてみよう」（一区画程度）

- ①プロジェクトの説明会
- ②学生と住民で管理されている休耕地を借りて茅を植えるイベントを実施



休耕地

茅植え交流イベント

茅場

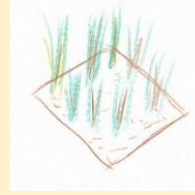
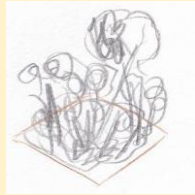
（予算想定：福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」）



2024～2025年度

「荒廃農地を復旧、茅を植えてみよう」

- ③補助事業で荒廃農地を復旧
- ④学生と住民で復旧した荒廃農地に茅を植える・茅を刈るイベント実施



荒廃農地

復旧

茅植え交流イベント

茅場

茅刈り交流イベント

（予算想定：福島県「遊休農地等再生対策支援事業」、農水省「農山漁村振興交付金」）

「管理されている休耕地に茅を植えてみよう」（一区画程度）

- ①プロジェクトの説明会
- ②学生と住民で管理されている休耕地を借りて茅を植えるイベントを実施



休耕地 → 茅植え交流イベント → 茅場

（予算想定：福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」）

「荒廃農地を復旧、茅を植えてみよう」

- ③補助事業で荒廃農地を復旧
- ④学生と住民で復旧した荒廃農地に茅を植える・茅を刈るイベント実施



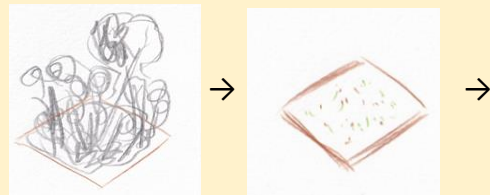
荒廃農地 → 復旧 → 茅植え交流イベント → 茅場 → 茅刈り交流イベント

（予算想定：福島県「遊休農地等再生対策支援事業」、農水省「農山漁村振興交付金」）

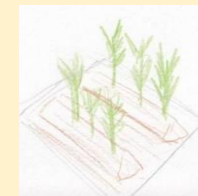
将来的に

「観光客に農地を貸し出そう」

- ⑤補助事業で荒廃農地を復旧
- ②空き家・民宿に泊まった観光客に農地を貸し出す
（予算想定：農水省「農山村振興交付金（農泊推進事業）」）



荒廃農地 → 復旧



おうち滞在型市民農園